

「みんなで創ろう 安全・安心で誇れる京ケ島」



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
高崎市立 京ケ島小学校	京ケ島小学校学校運営協議会 平成25年4月1日 指定	地域学校協働活動推進員 0名 0名 地域コーディネーター 7名 5名	京ケ島小学校 地域学校協働本部



取組の背景及び目標や目指す姿

背景

本校は児童数450人の中規模校であり、開校150年に迫る長い歴史と伝統のある学校である。家族が3世代にわたって京ケ島小出身という家庭も多く、学校に対する愛着の強い地域性を併せ持つ。一方で、片側3車線の幹線道路沿いに位置し、子どもたちの登下校時の安全確保は最重要課題の一つとなっている。長年にわたり、地元ボランティアの方々によるあいさつ運動や安全パトロールによって守られてきたが、後継者不足や交通量の増加に伴う危険性の増加という課題に直面している。

目標や目指す姿(学校)

『キラキラ輝く凜とした子を育てる』
将来にわたる自己実現に向けた「生きる力」を育むために

目標や目指す姿(地域)

『京ケ島小学校の子どもたちは地域で守り、育てる』
ここであってよかったと思える、おらが町の学校を目指して



京ケ島小学校学校運営協議会 の特徴

委員の立場や属性等

- | | |
|--|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 区長・区長会長 | <input type="checkbox"/> 保護者・PTA新旧役員 |
| <input type="checkbox"/> 公民館長 | <input type="checkbox"/> 商工会・企業関係者 |
| <input type="checkbox"/> 有識者(大学教授) | <input type="checkbox"/> 教職員 |
| <input type="checkbox"/> 主任児童委員・民生児童委員 | など、計 15 名で構成 |
| <input type="checkbox"/> 地域ボランティア | 年間平均 5 回程度開催 |

効果的な運営の工夫

- 各区長(全12区)を中心にまとまりとつながりのある地域、穏やかで協力的な地域の方々の人柄を最大限に生かすために、幅広い分野から運営委員を選出している。
- 学校運営協議会(年間5回)では、全体会のあとに3部会に分かれて熟議を行い、各視点から学校課題・地域課題を協議している。
- 子どもの見守り、学習支援などのボランティアを積極的に学校に迎え入れ、地域と子どもたちとのつながり強化を図っている。



特徴的な取組と成果・効果

学校運営協議会

◎3部会の一角を担う「防災・安全・環境部会」において、子どもたちの安全確保と環境改善について熟議・児童の目線にたち、様々な視点で危険箇所の洗い出しと改善策の検討
・「安全マップ」の有効な活用方法、学校の安全教育に対する提言などを検討



熟議の場

地域学校協働活動

◎地域、児童、保護者が協力して行う「通学路環境美化及び総合安全点検」の実施
・環境美化活動を通して、地域、児童、保護者とのつながりの醸成
◎結果を持ちかえって、危険箇所の洗い出しや対応策について熟議



安全策について現地で議論

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

- ◎学校の様子や教育目標は学校だより「花の学び舎 京ケ島」やホームページで随時発信するのはもちろん、コミュニティ・スクールの目標や理念もホームページ内に掲載することで、より多くの人に京ケ島小の実情や目指す姿を理解できるよう努めている。
- ◎幅広い人材を学校運営協議会委員として任命するとともに、地域に顔の利く区長や行政経験者、PTAの新旧役員を地域コーディネーターとして活動してもらうことで、支援の輪や協働の輪が広がり続けている。

取組

成果・効果

- ◎地域、児童、保護者が一緒になって、普段登下校で通っている通学路の安全点検を行った。児童と保護者が一緒に歩くことで、交通安全に対する意識が大きく高まった。同時に、ゴミ拾いを行うことで、地元の環境美化に対する意識も高まった。
- ◎日頃から見守ってくださる地域の方々を目線で危険な場所を教えていただきながら、保護者にとっては実際に歩くことで初めて気づく点もあり、満足度の高い行事となった。
- ◎点検結果を踏まえて安全対策についても熟議を行い、現在「京ケ島小安全マップ2022」の作成につなげている段階である。
- ◎学校運営協議会委員を通して行政への働きかけもスムーズになされ、特に危険度が高いと認められた歩道に、安全ポールや防護柵が設置され、子どもたちの安全な登下校に寄与することができた。
- ◎学校運営協議会からの提言を受け、教職員の中でも危険箇所の情報共有が図られ、交通安全運動の配置の再検討につながった。
- ◎児童にとって安心・安全な通学路づくりを迫及することが、地元の方々にとっても安心・安全な生活道路づくりとなり、結果として京ケ島地区全体の安心・安全な街づくりへと結びついている。今回、地域と学校の枠を超え、行政も含めた協働活動が行えたので、今後もさらなる連携の強化が期待される。